

浄土真宗本願寺派総合研究所発行の冊子につきまして

2024（令和 6）年 1 月に浄土真宗本願寺派総合研究所より発行いたしました冊子『なぜ「私の煩惱と仏のさとりは本来一つゆえ」なのか』および補完資料（以下、本冊子）につきまして、その解説の姿勢に鑑み、今後使用しないことといたしました。ここに謹んでお知らせ申し上げます。

浄土真宗の肝要は、『歎異抄』第一条に「弥陀の誓願不思議にたすけられまゐらせて」とありますように、阿弥陀如来の五劫思惟の本願が兆載永劫の行により成就し、そこに成立する不思議のはたらきにほかなりません。そのはたらきは『仏説阿弥陀経』に「不可思議の功德」と示されているところです。そして私たち凡夫が浄土に往生させていただく正因たる信心とは、凡夫のはからいを離れて如来の本願を疑いなく聞信するところにあります。

しかしながら、本冊子の解説の姿勢は、はからいを離れて本願を聞信するという浄土真宗の根本的立場からではなく、救済の根拠を仏教思想史上に求めようとするものであり、それ自体がまさに凡夫のはからいです。また、多くの先学の文章を本来の文脈に即さない不適切なかたちで引用するなどの問題があり、これらの点が宗門内の混乱を助長する一因ともなりました。関係者の皆さまに対し、深くお詫び申し上げます。

今後は、このような事態を二度と繰り返さぬよう、当研究所発行の文書に一層の注意を払い、親鸞聖人以来 800 年にわたって護持されてきた浄土真宗のご法義を正しく護り伝えるべく、諸分野にわたる研究に努めてまいります。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

称 名

2025（令和 7）年 10 月 10 日

浄土真宗本願寺派総合研究所長

佐々木義英